

令和2年度徳島県立文書館事業実績

1 来館者数

年 度	文書館	文化の森全館
平成 2年度(5ヵ月間)	17,540人	603,937人
3年度	27,333人	792,842人
4年度	19,297人	713,075人
5年度	17,856人	667,901人
6年度	19,825人	647,249人
7年度	35,078人	792,915人
8年度	19,593人	713,750人
9年度	19,796人	698,616人
10年度	23,316人	723,267人
11年度	26,705人	765,982人
12年度	45,300人	767,760人
13年度	26,263人	751,851人
14年度	25,625人	868,366人
15年度	27,436人	865,498人
16年度	33,056人	924,444人
17年度	39,454人	860,037人
18年度	35,089人	827,699人
19年度	24,215人	878,639人
20年度	27,171人	762,403人
21年度	25,851人	837,371人
22年度	32,948人	792,349人
23年度	25,183人	759,956人
24年度	27,516人	703,187人
25年度	29,133人	669,282人
26年度	36,221人	709,798人
27年度	36,397人	792,122人
28年度	43,816人	937,116人
29年度	40,364人	814,816人
30年度	41,612人	861,121人
31年度	46,969人	877,922人
令和 元年度		
令和 2年度	24,121人	625,400人
累 計	920,085人	24,007,284人

2 企画展示事業

(1) 前年度よりの残事業

文書館逸品展「公文書に見る徳島の風水害」

令和2年1月28日～4月26日(17日)

※令和2年4月22日～5月8日まで新型コロナウイルス感染拡大のため、文化の森総合公園内全館臨時休館

入館者数 984人<4月1日より4月21日まで>

(2) 今年度の企画展

①文書館の逸品展「阿波の引き札Ⅱ -三舟家コレクション-」

令和2年4月28日～8月2日

※令和2年4月22日～5月8日まで新型コロナウイルス感染拡大のため、文化の森総合公園内全館臨時休館

入館者数 4,853人

②第60回企画展「藍を作り、藍を売る ー阿波の主産業・藍ー」

令和2年8月4日～10月25日

入館者数 5,367人

③第61回企画展「文化の森の30年」

令和2年10月27日～令和3年1月24日

入館者数 6,155人

④文書館の逸品展「史料に見る自然災害Ⅰ ー絵図と古文書に見る阿波の水害ー」

令和3年1月26日～4月25日

入館者数 4,065人（3月末まで）

(3) 共催展示

「文化の森30周年共同企画展 文化遺産を後世に伝える
ーとくしまデジタルアーカイブー」

・令和2年11月3日～11月15日

・文化の森総合公園内5施設（徳島県立図書館・徳島県立博物館・徳島県立近代美術館・徳島県立二十一世紀館・徳島県立鳥居龍蔵記念博物館）と、公園管理を担当する（公財）徳島県建設技術センターとの共催。

・徳島県立近代美術館ギャラリーにて開催。

(4) 出張展示

令和2年度は実施せず

(5) 小展示

令和2年度は実施せず

3 教育普及事業

(1) 郷土の歴史や文化に関する講座を開催し、県民に生涯教育の場を提供した。

【古文書講座】

ア 古文書講座（初級） 令和2年6月13日～10月24日 第2・4土曜日

・参加者延べ 148人

・計10回を開催し、館所蔵の史料を利用して、古文書等の基礎的知識の取得及び解読能力の向上をはかった。

・新型コロナウイルス感染拡大により、例年より1ヶ月順延して実施。受講者の定員も例年の40名程度から30名程度に減らした。（実際の応募者は21名）

・講座内容は以下の通り。講師は金原祐樹・嵐大二郎が担当

①	開講式・入門講座
②	和本を読む（仮名文字と言ひ回し） ー「阿波名所図会」を読む1ー
③	和本・書軸を読む（文字に慣れる） ー「阿波名所図会」を読む2ー
④	江戸時代の文体に慣れる1 ー徳島の古文書を読む会刊行の史料集を読むー
⑤	江戸時代の文体に慣れる2 ー徳島の古文書を読む会刊行の史料集を読むー
⑥	古文書の文字に慣れる1 ー地域に残る古文書を読むー
⑦	古文書の文字に慣れる2 ー地域に残る古文書を読むー
⑧	古文書の辞書を使う1 ー証文・切手を読むー
⑨	古文書の辞書を使う2 ー証文・切手を読むー
⑩	書簡を読む・閉講式（修了証授与）

イ **古文書講座（中級）** 令和2年11月14日～令和3年1月23日 隔週土曜日

- ・参加者延べ 133人
- ・徳島県下の史料等を利用して、古文書を「より深く知りたい」「歴史への扉を開きたい」という人々の要望に応えた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、例年より1ヶ月順延して実施。受講者の定員も、例年の40名程度から30名程度に減らした。（実際の応募者は24名）
- ・今年度は担当職員が増えたため、例年より多い計6回開催。
- ・講座内容と講師は以下の通り。

①	「戦国時代の禁制を読む」	徳島県立文書館館長	石尾和仁
②	「和田島・森家文書 御城米関係資料より」	徳島県立文書館職員	板東英雄
③	「藍商が直面したトラブル」	徳島県立文書館主任	嵐大二郎
④	「阿波の人々が見た幕末の動乱」	徳島県立文書館主席	徳野隆
⑤	「幕府天文方役人の徳島における測量関係資料」	徳島県立文書館職員	西本沙知子
⑥	「藍の生産と吉野川の水害」	徳島県立文書館課長	金原祐樹

【文書館歴史講演会】

令和3年2月28日

演題 「災害の記憶と記録」

講師 岡山大学名誉教授 倉地克直氏

参加者 51人

【展示解説】

企画展・資料紹介展の展示講演会・展示解説を開催することによって、展示内容や時代背景などをより深く知りたいという人々の要望に応えた。

※新型コロナウイルス感染拡大のため、4月・5月に予定していた展示解説は中止。

①	文書館の逸品展「阿波の引き札Ⅱ -三舟家コレクション-」		
	展示解説(1)	令和2年6月19日	参加者 7人
	展示解説(2)	令和2年7月12日	参加者 13人
②	第60回企画展「藍を作り、藍を売る -阿波の主産業・藍-」		
	展示解説(1)	令和2年8月23日	参加者 13人
	展示解説(2)	令和2年9月22日	参加者 32人
	展示解説(3)	令和2年10月16日	参加者 21人
③	第61回企画展「文化の森の30年」		
	展示解説(1)	令和2年11月3日	参加者 5人
	展示解説(2)	令和2年12月5日	参加者 15人
	展示解説(3)	令和3年1月14日	参加者 9人
④	文書館の逸品展「史料に見る自然災害Ⅰ-絵図と古文書に見る阿波の水害-」		
	展示解説(1)	令和3年2月11日	参加者 22人
	展示解説(2)	(徳島の古文書を読む会1班とワークショップを共催)	
		令和3年3月27日	参加者 11人

(2) ボランティア活動

【古文書補修ボランティア・同養成講座】

- ・毎月2回（第1・第3水曜日）
- ・参加者毎回10数人程度
- ・文書館収蔵古文書の補修を行った。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、4月・5月の活動は中止した。
- ・密を避けるために、今年度より参加者を午前と午後に分けた。

(3) 文書館活動の内容や研究成果を発表・報告した。

- ① 「文書館年報」第23号（第21号より当館ホームページのみの閲覧に移行）
- ② 図録「阿波の引き札Ⅱ -三舟家コレクション-」 令和2年 4月22日刊行

- ③ 図録「藍を作り、藍を売る ―阿波の主産業・藍―」 令和2年 8月 4日発行
- ④ 図録「文化の森の30年」 令和2年10月27日発行
- ⑤ 図録「史料に見る自然災害Ⅰ―絵図と古文書に見る阿波の水害―」
令和3年 1月26日発行
- ⑥ 「文書館だより」42号 令和3年 3月29日発行

【その他の教育普及事業】

①文書館ウィーク

例年、中国・四国地区の各文書館・公文書館では、公文書館法施行の記念日である6月1日からの1週間を「文書館（アーカイブズ）ウィーク」として、各種イベントを開催している。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、当館では実施時期を8月に延期した。

戦後75年ということもあり、8月13日から4日間、「ナトコフィルム」の上映会をおこなった。

戦後75年文書館ナトコ映画祭 令和2年8月13日～16日

- ・ 県立二十一世紀館ミニシアターにて開催
- ・ 参加者延べ36人
- ・ GHQの占領政策の一環として、戦後、日本各地で巡回上映されたCIE教育映画（通称「ナトコ映画」）。当館が所蔵する中から毎日数作品ずつ、日替わりで上映した。
- ・ これまで、戦後60年・65年・70年と3度開催している。

【新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度実施を見送った教育普及事業】

①文化の森フェスティバル

例年、「フェスティバル」と銘打ち、文化の森総合公園を挙げて様々なイベントを季節ごとに年間4回行っている。

②教員のための文書館活用講座

平成28年度より、県内の中学校社会科・高校地歴科教員を対象に開講し、文書館資料を地域史学習の教材として活用するヒントやノウハウを伝えている。

③古文書保存講座

例年、記録遺産としての古文書の保存と活用を図るための講座を開催している。

④公文書管理・保存講座

例年、主に自治体の職員を対象に開講し、公文書の保存と活用の重要性を伝えている。

4 調査研究事業

(1) 県内外に所在する古文書や公文書など貴重な歴史資料の調査・収集、市町村所蔵史料の整理支援を進めた。

【資料調査・収集先】

- ・ 城東中学校（徳島市）
- ・ 岡田家（那賀郡）
- ・ 海陽町立博物館（海部郡）
- ・ 武田家（美馬市）
- ・ 高橋家（名西郡）
- ・ 徳島県消費者政策課（徳島市）
- ・ 徳島県高等学校教育研究会工業学会（徳島市）

(2) 県内資料の所在調査及び情報収集を円滑に行うため県内各地域に資料調査員をおき、情報収集に努めている。しかし、年1回行う資料調査員会議は、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため実施せず。

(3) 文書館関係の情報交換及び研修をはかった。

- ・ 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 公文書館機能普及セミナー（鳥取市民会館）
5名参加

(4) 例年行われている全国公文書館長会議は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止。

5 資料収集整理

古文書・公文書及び行政資料など歴史的文化的価値のある資・史料を広く収集するとともに、整理保存を行い、閲覧等の利用に供した。

(1) 整理状況

区 分	R 3 年 3 月 末 現 在	
公 文 書	25,355冊	
行政資料	刊行物	79,894冊
	複製本	176冊
	マイクロフィルム	1,033リール
	マイクロフィッシュ	870枚
	光ディスク	20枚
	その他	166点
	小 計	82,159点
古文書	文 書	214,106点
	複製絵図	502枚
	マイクロフィルム	2,628リール
	小 計	217,236点
その他	図 書	10,848冊
	写 真	13,576枚
	小 計	24,424点
合 計	349,174点	

(2) 令和2年度寄贈・寄託資料

- ・城東中学校所蔵文書
- ・岡田家文書
- ・祖父江家文書
- ・高橋家文書
- ・徳島県高等学校教育研究会工業学会

(3) 令和2年度公開古文書

なし

6 文書館への来館・研修等

- ・徳島市立徳島城博物館職員（資料調査・資料返却）
- ・国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所職員（資料閲覧）
- ・小松島市役所職員（資料閲覧）
- ・高知県安田町まちなみ記念館職員（資料貸出・返却）
- ・徳島県地方气象台職員（表彰）
- ・徳島県警察本部職員（資料閲覧）
- ・美馬市教育委員会職員（燻蒸依頼）
- ・徳島大学教員・学生（博物館概論）
- ・徳島大学学生（インターンシップ）
- ・広島大学学生（インターンシップ）
- ・公立鳥取環境大学（インターンシップ）
- ・徳島県遺族会会員（燻蒸済資料の引取り）
- ・沖方丁氏・文藝春秋社員（資料閲覧）
- ・広島女学院大学教員（資料閲覧）
- ・城東高校教員・生徒（資料閲覧）
- ・牟岐町図書館友の会（館内見学）

- ・立教大学教員（資料閲覧）
- ・徳島県職員（資料貸出）
- ・高知城歴史博物館職員（資料調査）
- ・小松島高校教員・生徒（資料閲覧）
- ・四国大学教員・学生（資料閲覧）
- ・鳴門教育大学教員（資料閲覧）

7 各講座への出講・出前授業

- ・徳島県公文書管理条例検討会議（金原・嵐）
- ・徳島県新規採用職員 WEB 研修（金原）
- ・阿波を学ぶ（歴史編Ⅱ）（金原）
- ・鴨島小学校（徳野）
- ・三大学学芸員資格取得講座（金原・嵐）
- ・シルバー大学校 WEB 講座（徳野・板東）
- ・鳥居龍蔵セミナー（石尾）
- ・新未来とくしま講座（石尾）
- ・古文書読み方講座（徳野・金原）
- ・神山町成人大学講座（徳野）